

平成26年度大学院法学研究科博士課程後期課程一般入試 出題の意図

【外国語】

英語	問題	筆答試験では大学外に著作権がある外国語文献のみが使われますので、著作権法の規定により本サイトでは表示できません。ただし教務係にて閲覧することは可能です。
	出題の意図	<p>【第1問】 国際的にも国内的にも問題となり、法律・政治の双方に関わる問題である、子どもの国際的な誘拐の刑事規制に関するごく基本的な英文である。文法的に正確な訳ができているかという面と全体の大意をつかめているかという面から英語能力をはかるものである。出典は、ハーグ条約の実務手引書である、“GUIDE TO GOOD PRACTICE under the Hague Convention of 25 October 1980 on the Civil Aspects of International Child Abduction”である。</p> <p>【第2問】 出題された文章は、公共財について解説している。公共財という法学・政治学に共通するテーマである点、文構造が明確で語彙も平易である点、内容把握において専門的知識を要しない点から、本文章を出題した。大学院において法学・政治学を学ぶうえでの必要最低限となる英文読解力と、その発展可能性を問うている。採点にあたっては、英文の構造と意味をより正確に理解できているかに重点を置いている。</p>
ドイツ語	問題	筆答試験では大学外に著作権がある外国語文献のみが使われますので、著作権法の規定により本サイトでは表示できません。ただし教務係にて閲覧することは可能です。
	出題の意図	法学・政治学に関するドイツ語の文章の和訳を通じて、名詞の性・数・格といった基礎的な文法事項や、基本的語彙についての理解を問うものである。